

平成30年7月4日（水）

老球の細道423号

教え子「サムライ」の結婚披露宴

会津バスケットボール協会 室井 富仁

今は昔、『祝辞』という映画を観た。財津一郎主演の喜劇映画である。会社上司の息子の結婚披露宴祝辞を依頼された。色々なエピソードを集め、家族の前でも事前にスピーチのリハーサルを行って準備した。結婚披露宴当日、自分の前にスピーチをした別の会社上司のスピーチが、なんと自分の準備してきたエピソードと同じ内容であった。結局自分のスピーチは「おめでとうございます」の一言しか言えなかったという映画だった。

先日坂下高校時代の教え子で「サムライ」と同級生やコーチたちからリスペクトされたF君の結婚披露宴に招待された。高校時代から無口で女の子とは無縁の存在だと思っていたが、同級生では最も早い結婚となった。人生はどこでどうなるかわからないものである。

教え子の結婚式では祝辞やテーブルスピーチを依頼されることが多い。高校時代のエピソードを思い出しながら過去を振り返り、私自身の指導のあり方も反省する。

スピーチは「起承転結」の原則でまとめる。今回のスピーチは「起」が私の紹介とご両人、ご両家へのおめでとうメッセージ。「承」はF君の高校時代の活躍と人柄。「転」はF君の意外な一面。今回は「プールウンチ事件」。プールにあった謎のウンチをプールに入って除去した武勇伝（他の部員は皆敬遠）。「結」は結婚生活苦節40年を経た私の贈る言葉。高校時代は学業とバスケの両立、結婚生活は「ときめきとやすらぎの両立」。いつまでも魅力ある存在でいるよう自分自身を進化、向上、変化させようと自分ができることでもまとめた。

結婚披露宴に招待されると、祝辞を準備する大変さはあるが楽しみもそれ以上に多い。まず多くの美男、美女をウオッチングすることができる。人生において最もおしゃれをするのが結婚式、披露宴である。誰もがファッションモデルになっている。また、卒業以来会っていない新郎、新婦の同級生たちと久しぶりに会って思い出話に話を咲かせることができるのはコーチの至福の時間である。F君の新婦もバスケットボール経験者で、彼女の中学時代の恩師名将今村先生とも同席するサプライズがあった。

そして最後に、F君の高校卒業以後のエピソードを東京でお世話になったBリーグ「東京アースフレンズ」の社長さんから聞くことができた。無口でストイックなF君は社長にお願いしてプロバスケットボール試合のハーフタイムに「ハーフタイムショー」の一環として、コートの中で多くの観客の見守る中でプロポーズをしたという。高校時代から周囲に流されず、常に自分自身に厳しく行動していたF君にそのような大胆な遊び心があるとは思ってもよらなかった。また、驚くべきことを社長の乾杯の音頭のスピーチで紹介された。F君は今春神奈川県バスケットボール強豪校に就職が決まり、現在高校2年生のクラス担任とバスケットボール顧問の任についている。大学卒業してからトレーナーの仕事数年してからの就職であった。これには理由があった。F君は「僕は単なる教師にはなりたくない。スーパー教師になるのだ。だからしばらく色々な仕事をして社会勉強をする。それから教師になる」。F君は言った通りに実現した。さすがサムライであった。

F君の話聞いて私もスーパー爺に向かって仕切り直し。披露宴ではF君のお父さんがライバル郷ひろみの「アーチッチ♪コーチッチ♪」のカラオケを熱唱していた。祝。